

京都企業がみた2008年の景気動向と 経営見通し(調査レポート)

京都府中小企業技術センターでは、京都府内に本社を置く主要企業を対象に、「2008年の景気動向と企業の経営見通し」についてアンケート調査を実施し、結果を取りまとめたので、その内容をご紹介します。

◆調査要領

- **調査対象** 府内に本社を有する主要企業 2,000社
(回答企業 522社、回答率 26.1%)
- **実施機関** 京都府中小企業技術センター
(実施時期 平成19年10月29日～11月12日)

◆調査結果の概要

1 京都企業が予測する2008年の景気

- 国内景気の現状(2007年)についてのDI指数はマイナス24.1と、昨年調査の5.6から29.7ポイント下回り、大変厳しい見方となっている。(図1、図2)
- 2008年の景気見通しについては、上期(▲20.8)、下期(▲20.7)と3年ぶりにマイナスに転じ、景気の先行きについて厳しい見方をしている。(図3-1、図3-2)
- 今後の景気動向に対する懸念材料として、「原油・原材料価格の動向」(59.4%)がトップで、次いで「世界経済の動向」(40.2%)、「個人消費の動向」(39.2%)に高い関心が示されている。(図4)

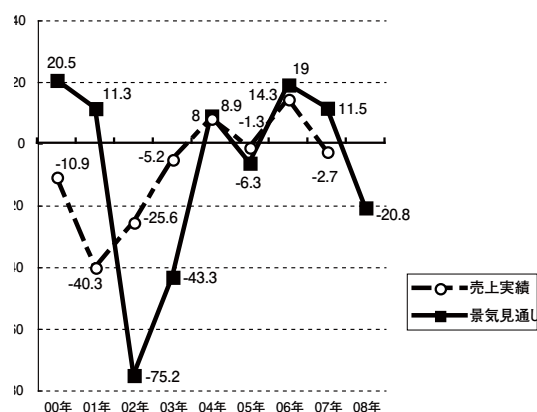
2 自社の2008年業績予想

- 2008年は景気動向が厳しいなかでも、自社の売上は横ばいとする企業が多い。しかし、売上は横ばいでも経費増により利益は落ち込むと見る企業が多い。(図5-1、図5-2)
- 小規模企業では売上、利益とも厳しい見方となっているが、従業員300人以上の大手企業では売上、利益とも増加すると見る企業が多い。
- 来年の設備投資は、概ね横ばいと見られる。しかし、設備投資を行わない企業も4分の1近くある。(図6)
- 従業員の雇用について現状を適正とみる企業が過半数を占めるが、25%強の企業では不足と考えており、特に運輸・倉庫業、サービス業で不足感が強い。

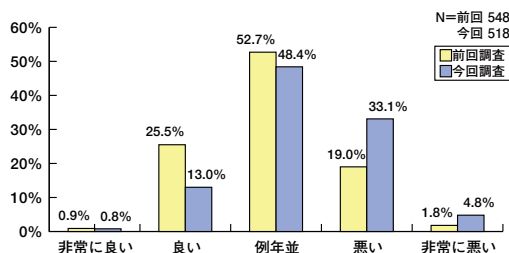
3 経営上の問題点

「原材料仕入価格上昇」(61.6%)、「競争激化」(54.3%)、「売上低下」(42.4%)「人材不足」(37.0%)が上位を占めている。最近、原油や資源価格が一段と騰勢を強めたことから「原材料仕入価格上昇」が、昨年より20ポイント増えて1位となった。(図7)

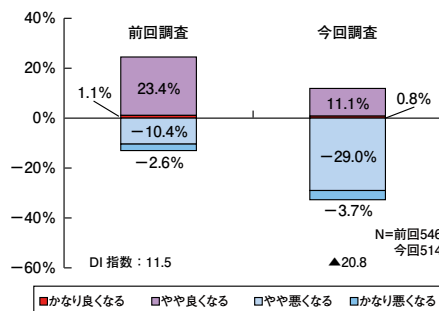
【図1 上半期の景気見通しDIと実際の売上実績DIの推移】



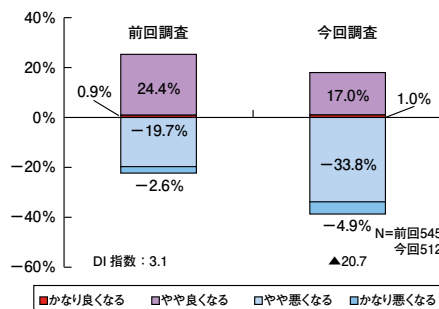
【図2 現在の景気判断】



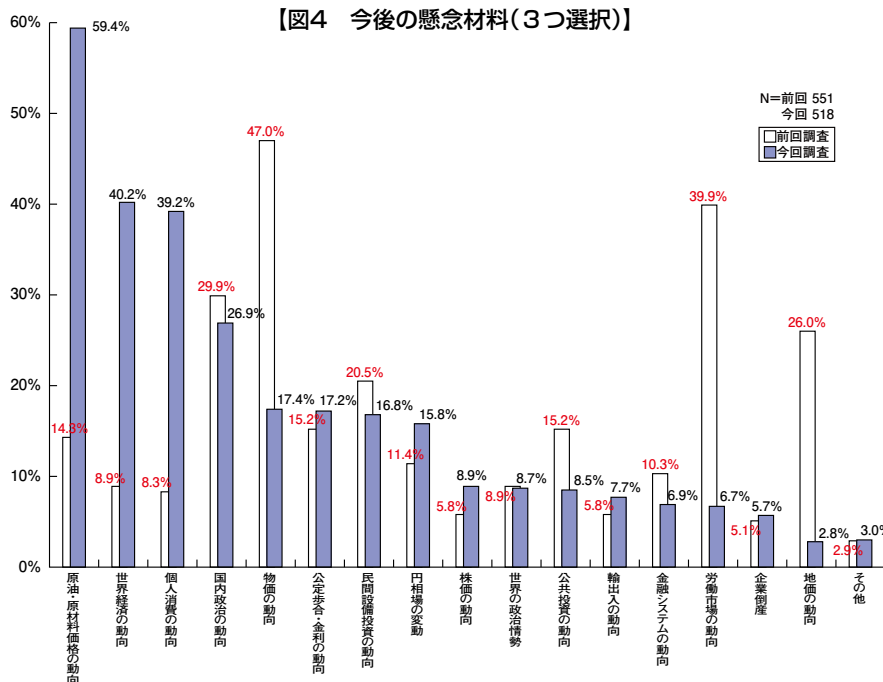
【図3-1 上半期の景気見通し】



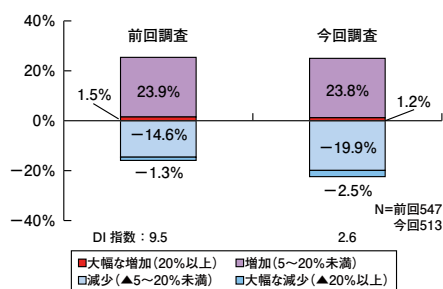
【図3-2 下半期の景気見通し】



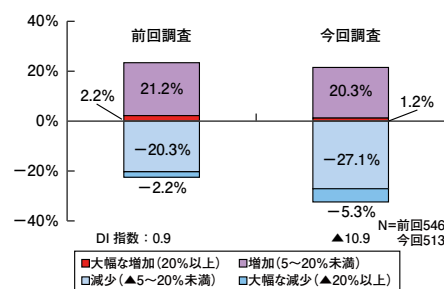
【図4 今後の懸念材料(3つ選択)】



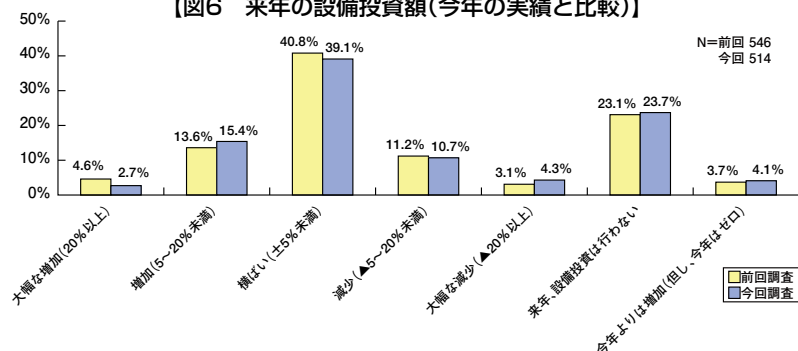
【図5-1 来年の売上見通しDI指数】



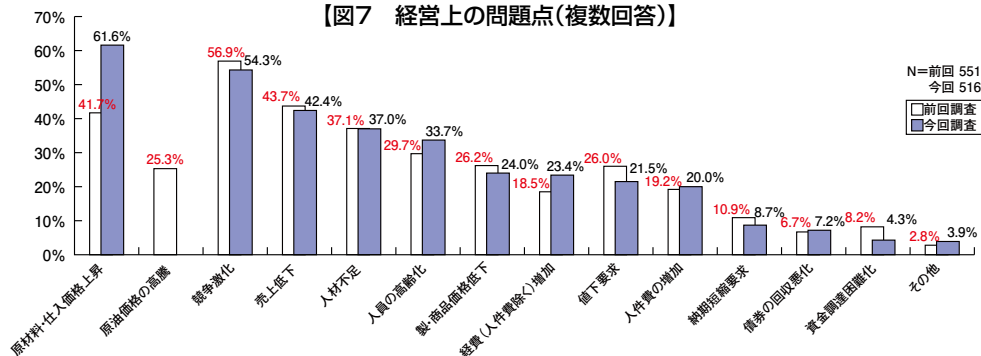
【図5-2 来年の経常利益見通しDI指数】



【図6 来年の設備投資額(今年の実績と比較)】



【図7 経営上の問題点(複数回答)】



※ 詳細は、<http://www.mtc.pref.kyoto.lg.jp/inf/inv/pro/2008> をご覧ください。

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
企画情報室

TEL:075-315-9506 FAX:075-315-1551
E-mail: kikaku@mtc.pref.kyoto.lg.jp